

病院情報システムからの標準データ形式 によるデータの取り出しと2次利用

日本医療情報学会副会長
浜松医科大学医療情報部
木村通男

Contents

- ⌘ 高速臨床情報検索システムD*D
 - ☒ その長短
 - ☒ 病院情報システム上でケースカードを作る
 - ☒ ゲノム情報への拡張
- ⌘ 厚生労働省診療情報標準的交換推進事業SS-MIXの概要と現状
- ⌘ 各種アンケート
 - ☒ 診療情報の扱いに関する市民アンケート(日米)
 - ☒ 2次利用についての調査(アジア12カ国)
- ⌘ 検索力向上による特定リスクの増加例
- ⌘ 提言
 - ☒ 目的の吟味と、まずはクリーンルーム方式で

病院情報システムが持つデータ (上ほど入手しやすい)

- ⌘ 画像 (DICOM規格)
- ⌘ 患者基本、処方、検体検査結果 (HL7規格)
- ⌘ 病名(但しどれが主病かわからない) (HL7)

- ⌘ ここまで、SS-MIXで全国50%以上の病院で対応可

- ⌘ 各種報告書、計画書(人に読んでもらうための書類)
(HL7の文書規格CDA)
- ⌘ 所見、計画など(プログレスノート) (規格なし)